

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230

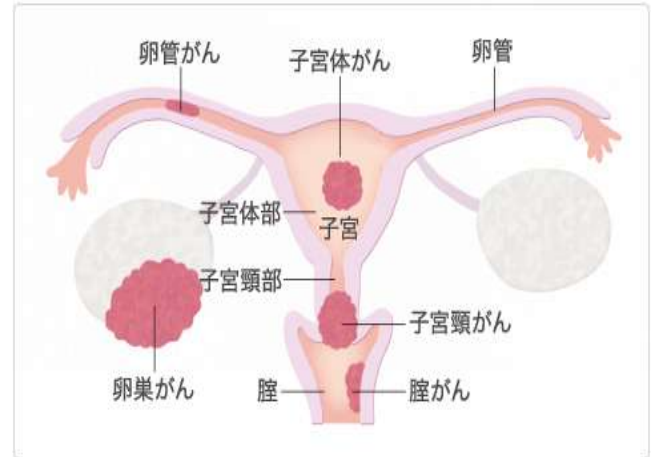
～子宮がん・ワクチンについて～

子宮のがんには2種類ある

赤ちゃんが育つ「子宮体部」にできるがんは、「子宮体がん」別名「子宮内膜癌」と呼びます。

子宮の入り口付近、「子宮頸(けい)部」にできるがんを、「子宮頸がん」といいます。この2種類のがんは、原因や発症しやすい年齢・特徴・治療法などが違うため、それぞれについて正しい知識が必要となります。

図:子宮の構造と女性性器がんの種類



子宮体がんと子宮頸がんの特徴

	子宮体がん	子宮頸がん
患者数(年間)	新たにがんになる人が約 8,200 人、亡くなる人は約 1,700 人	新たにがんになる人が約 8,500 人、亡くなる人は約 2,500 人
原因	エストロゲン(女性ホルモンの一種)によって発症しやすくなるが、関係なく発生するものもある。	多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスが関与。性行為によって感染する。
がんになりやすい人	閉経年齢が遅い、妊娠、出産歴がない、肥満、糖尿病、高脂血症の方。乳がん、更年期障害のホルモン治療を受けている方。	性経験があるすべての女性に可能性があるが、がん発症はまれ(約0.15%)。
発症しやすい年齢	40歳代後半から増加し、50歳代から60歳代がピーク。近年、年齢に関係なく増加傾向。	20歳代から40歳前後まで増加し横ばいになり、70歳代後半以降再び増加。近年、20~30歳代に増加傾向。
症状	不正出血(最もよくある)、おりもの、骨盤領域の痛みなど。	症状のないのが普通。進行すると月経でない時や性行為の際の出血。
早期発見には?	子宮体がん検診を受けましょう(子宮の奥の組織を削るので少し痛みがある)。ただし、健診での子宮がん検査では子宮頸がんのみの検査のことがあるので要注意!!	20歳を過ぎたら2年に1回は必ず子宮頸がん検診を受けましょう。外子宮口を綿棒でこするだけなので、簡単で痛みもなく、短時間で終了します。

子宮頸がん予防ワクチン接種ができるようになりました！

★子宮頸がんの原因は

HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因です。HPVは皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスで、性経験のある人なら誰でも感染します。100以上の型がありこのうち約15種類が「発がん性HPV」と呼ばれます。

この「発がん性HPV」に感染しても、90%以上は体内から自然排除されがんに移行することはありませんが、HPVは一度排除されても繰り返し感染し、ごく一部が子宮頸がんになると言われます。初期症状はほとんどありませんが、がんが進行すると子宮の摘出をする必要もあり、妊娠・出産を望めなくなることもあります。

★子宮頸がん予防ワクチンとは

「発がん性HPV」の60%を占める16・18型の抗体をつくるワクチンで、性経験がないうちの接種により、16・18型HPV感染による発がんを防ぐことができます。半年の間に合計3回接種することで、十分な効き目が得られます。接種年齢は11～14歳といわれていますが、それ以外の年齢の人は医師と相談してみましょう。

ワクチンは今感染しているHPVを排除したり、子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまでも接種後のHPV感染を防ぐものです。

★ワクチンの接種後も健診を受けましょう。

子宮頸がん予防ワクチンだけでは、すべての「発がん性HPV」を防ぐことはできません。そのため20歳になったら子宮がん検診をかならずうけるようにしましょう。また、ワクチンにより副作用がでる可能性もありますので、ワクチン接種の際には医師とよく相談をしましょう。

★予防接種の価格、申し込みは

3回接種で約5万円の負担になります。市町村によっては公費負担がある、集団接種が受けられるなど、負担額や対応が異なります。公費負担のある場合は、学校から通知が来ることが多いですが、わからない場合は住んでいる地域の保健センターに問い合わせましょう。

ちなみに今年度より、**三島市では小学校6年生・中学3年生女子は全額助成の対象者となります。**対象者には学校を通じて通知がきます。

また、それ以外の地域では各自治体に対して予防接種の公費での助成を求める署名活動も行われています。これを読んでいるみなさん本人だけでなく、みなさんの子供、孫、あるいはその将来のパートナーのためにもぜひ署名にご協力ください。

参考資料；広報みしまNo.1063

三島共立病院・阪下先生の講演より

文責：竹端尚美

